

幕末・神戸開港

神戸の港は江戸時代幕末の慶応三年十二月七日(一八六八年一月一日)に開港しました。幕府が外国人との衝突を避けるため、「徳川道」という本街道付替え工事を突貫で完成させたにもかかわらず、その事件は起きました。

開港から一ヶ月後、明治新政府より西宮の警備を命じられた備前藩が、三宮神社付近で行列を横切ろうとした外国人水兵を刺傷した事件が「神戸事件」です。折衝の結果、第三砲隊長であった滝善三郎正信が全責任を負い、兵庫津の永福寺(戦災で焼失)において切腹することになりました。傷害罪に対して死刑という外国公使団の無謀ともいえる要求を、旧幕府との対決を控えた新政府が「救国の一策」としたのです。同寺に立てられた「滝善三郎供養碑」は、近くの能福寺に移されましたが、その前には今もそとと花の供えてあることが多いといえます。

今、多くの観光客で賑わう南京町に、始めて華僑の方が来神したのもこの頃です。旧居留地や北野など開港で栄えたまちの片隅にはこのような歴史の物語があります。



神戸事件発祥地の碑(三宮神社内)



明治中期の三宮神社(神戸市立博物館蔵)



主な見どころ

生田神社
祭神は稚日女貴わかひるめのみこと。震災で倒壊した本殿は平成8年(1996)再建された。境内には源平合戦の際、梶原景季がけすえが梅の枝を履えびして下りたこと、えびらの梅をはじめ、平敦盛の遺児が父の墓所を訪れる途中で休息したところ、子教盛の秋や、神功皇后の竹ノ井慶の竹ノ井などがある。西国街道の古い道標が門右手に建っている。4月15日に例祭。9月19、23日に秋祭がある。

三宮神社
祭神は稚日女貴わかひるめのみこと。震災で倒壊した本殿は平成8年(1996)再建された。境内には源平合戦の際、梶原景季がけすえが梅の枝を履えびして下りたこと、えびらの梅をはじめ、平敦盛の遺児が父の墓所を訪れる途中で休息したところ、子教盛の秋や、神功皇后の竹ノ井慶の竹ノ井などがある。西国街道の古い道標が門右手に建っている。4月15日に例祭。9月19、23日に秋祭がある。

花隈城跡
花隈公園一帯は神戸を代表する近世城郭。花隈城があったところである。天正2年(1574)に織田信長の命によって荒木損津守村重が毛利氏と石山本願寺の海上交通を遮断するために築城したという説が有力である。しかし、天正6年(1578)村重は信長に対して反旗を覆し、花隈合戦により天正8年(1580)に城は陥落した。すぐ西の福徳寺の門前には、花隈城主主閤之趾の碑が建っている。

走水神社
旧走水村の氏神で、祭神は天照大神・心宿星皇・菅原道真の三座。大名行列や旅人の往来が多く、幕府の高礼場(こうらいば)が設けられていた。また、走水はしづの村名は、昔、再度谷に大水が出る、この村めがけて水が流れ水害を受けたため、付いたといわれている。1月18、19日に厄除大祭。7月24、25日に天神祭・例祭がある。

本願寺神戸別院(モダン寺)
真宗本願寺派で、平成4年(1992)に鉄筋コンクリート4階建の近代的な本堂に様変わりした。有名な檀家に、廻船問屋の依屋があった。

関帝廟
明治25年(1892)華僑呉錦棠(きんたんと)が主として長楽寺(東大市)をこの地に移し、中国人の寺としたのが始まり。旧暦7月13、16日の盂蘭盆会(うらなえ)には豪華な飾りや太鼓・鐘などで賑わう。

八宮神社(六宮神社)
市内にある一宮神社から八宮神社の内、六宮と八宮が合祀(ごうじ)された社。両社は本殿を一部屋に分け、北側が六宮、南側が八宮として鎮座している。1月18、19日に厄除祭。7月13日に六宮祭。10月6日に八宮祭がある。

湊川神社
別名楠公なんこう(さん)と呼ばれ親しまれている。延元元年(1336)湊川の戦いで戦死した楠木正成一族の霊をまつている。本殿の西側奥に、史蹟楠木正成戦没地の碑が表門を入った東手前には楠木正成の墓とそれを建立した徳川光圀像。門外には兵庫黒屋程元権りていけんびょう(ご)がある。西国街道の道標も境内に移設されている。5月24、26日に楠公祭。7月12日に例祭がある。

新開地
平成11年(1990)新開地6丁目東地区市街地再開発組合によって建てられた再開発ビルである。明治・大正・昭和初期にかけて劇場や店舗・活動写真館などが立ち並び、大歓楽街であった新開地と西国街道が交差する場所に立地しているため、再び人の賑わいと交流がおこられることを期待して命名された。ビルの南東角には西国街道を示す道標が整備されている。

まちづくり会館
まちづくりに関する情報センターやギャラリーなどがある。まちづくりの活動拠点である。

